

こくたか 連携だより

2021年発行
第176号
9月号

整形外科の紹介 2

整形外科部長 大澤 敏久

がん看護専門看護師の紹介 3

がん看護専門看護師 櫻井 史子

がん看護専門看護師 清原 文

緩和ケアニュース 4

栄養だより 5

臨床検査科だより 6

医師紹介コーナー 7

セカンドオピニオンのご案内 8～9

外来診療担当表 10～11

院長閑話/行事などのお知らせ 12

トレニア

(6月～10月)

.. 花言葉 ..

「ひらめき」「可憐」

●地域医療支援病院 ●がん診療連携拠点病院

独立行政法人国立病院機構
高崎総合医療センター



〒370-0829 群馬県高崎市高松町36

代表 (TEL) 027-322-5901

URL <https://takasaki.hosp.go.jp/>

地域医療支援・連携センター(医療機関専用ダイヤル)

(TEL) 027-322-5835

(FAX) 027-322-5925

【理念】

患者さんから信頼される病院を目指します

【基本方針】

- 常に患者さん本位の医療を心がけます
- 研鑽に励み、安全で良質な医療を提供します
- 医療連携を積極的に推進し、地域医療に貢献します
- 良き医療従事者の育成に努めます
- 臨床研究を推進します
- 健全な病院経営を行います

【看護の理念】

人間の尊厳を大切にし、専門的な知識、技術を持ち、心のこもった看護を提供します

【患者さんの権利を守ります】

- 誰でも良質で安全な医療を受ける権利があります
- 患者さんの人格や価値観が尊重され、医療提供者との相互協力のもとで医療を受ける権利があります
- 病気、治療等について、十分な説明を受ける権利があります
- 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります
- 病気等について十分な説明を受けたうえで、自分の意志で検査や治療方法を選択したり、他の医療機関を選択する権利があります
- 医療情報に関する個人のプライバシーが守られる権利があります

整形外科の紹介

整形外科部長 大澤 敏久

少子化や核家族化、高齢化などが相まって、一人暮らしの高齢者がますます増加傾向に拍車がかかる現在であります。その現状は老老介護の方の増加であり、介護する方の負担も増える一方であります。一般的には高齢になればなるほど体の自由が利かなくなり、介護者の肉体的な負担が増えていきます。また軽度な外傷や作業中のちょっとした高さからの転落でも容易に骨折してしまいます。そのような方の骨折治療は今後しばらく増加するものと予想されます。そのため我々整形外科の役割は、ますます重要になってくると考えます。

整形外科では、これらの骨折や交通外傷・労務災害・運動中の外傷性骨折に対して可能である限り手術を行い、患者さんになるべく受傷前の日常生活に近づけるよう治療を行っています。さらに変性疾患（変形性関節症・変形性脊椎症など）やスポーツ障害に対しても患者さんのニーズに応えるべく対応しています。

当院整形外科での2000年度の手術件数は700件弱であり、主な手術内訳は脊椎手術

（144件）・大腿骨近位部骨折手術（87件）・上腕骨近位部骨折手術（31件）・橈骨遠位部骨折（29件）・人工関節手術（肩関節20件・膝関節20件）・肩腱板断裂手術（27件）であります。

前述いたしましたとおり、高齢者が多くなり骨粗鬆症にて容易に骨折いたします。このような患者さんは心疾患をはじめ内科的な合併症がある方も多く、たくさんの常備薬を内服されています。またかなりの方に嚥下障害や栄養障害も見受けれます。そのような患者さんの手術にはかなりのリスクがある患者さんも多いと思います。そのような方にも麻酔科や内科の先生方のご協力を得まして、なるべく手術できるようにつとめております。また入院中も看護師・リハビリ・薬剤師等と一緒に患者さんの日常生活復帰にむけて邁進しております。

最後になりますが、整形外科として手術後の患者さんの生活にメリットがなくてはならないと思います。そこを十分考慮して今後も治療をしていきたいと思っています。



がん看護専門看護師の 紹介



がん看護専門看護師

櫻井 史子



がん看護専門看護師

清原 文

専門看護師とは、複雑で解決困難な看護問題を持つ患者さん、ご家族に対して水準の高い看護ケアを提供するために知識・技術を深めた看護師のことです。看護師として5年以上の実践経験を持ち、かつ看護系の大学院で修士課程を修了し、試験に合格することで取得できる資格です。この資格は、日本看護協会が認める資格であり、「がん看護」以外にも「家族支援」、「老人看護」など13分野があります。

当院のがん看護専門看護師は、患者サポートセンターと外来に所属しております。患者サポートセンターでは、がん相談やよろず相談などの様々な相談を受けております。がん相談には、『がんと言われた直後で不安で誰に何を相談したらよいかわからないけど話を聞いてほしい』、『がんの治療を開始する前に子どもに病気の話をしていきたいがどのように伝えたらよいのか』などの相談があります。相談者からは、相談員につらさを語り、正しい知識を聞いて病気に対する理解が深まったことで不安の緩和に繋がったという感謝の声を頂いています。患者さんやご家族が納得して治療選択できるように、丁寧な心理的支援、科学的根拠に基づく情報提供を心掛けております。また当院だけでなく、地域で治療を受ける患者さんやご家族の相談にも対応したいと考えておりますので、ご希望の方は

ぜひご連絡を頂ければと思います。

外来では、主に通院治療センターで薬物療法や放射線治療を行う患者さんへの看護ケアを行っております。他のがん分野の認定看護師と協力し、がん告知や治療方針の決定時などの病状説明に同席し、患者さんやご家族の不安や気がかりを伺い、病気や治療の理解を助け、治療選択を支援するという意思決定支援も行っております。

私達は、がん看護専門看護師として、“がん”だけに焦点をあてるのではなく、がんを抱えて生きる“人”に焦点をあて、患者さんが、自分らしく生きていくことを支援したいと考えております。がん患者さんやご家族だけでなく、医療者が困ったことや悩んでいることがあれば、いつでもお気軽にお声をかけて頂きたいと思えます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

電話相談

027-322-5017 (直通)

「がん相談希望」

とお伝えください。



緩和ケアニュース

仕事と治療の両立に関する相談ができます。

病気の診断を受け治療が必要になると、“職場に迷惑が掛かってしまう”“仕事を辞めないといけないのだろうか…”など、今まで通りに働くことができないと不安に感じることがあるかもしれません。



仕事と治療の両立について、ソーシャルワーカーや看護師がお話を伺い、相談内容に応じて、関係機関との連携を図りながら、ともに考えさせていただきます。
仕事を辞めるという決断をする前に、ご相談ください。

がん相談支援センター

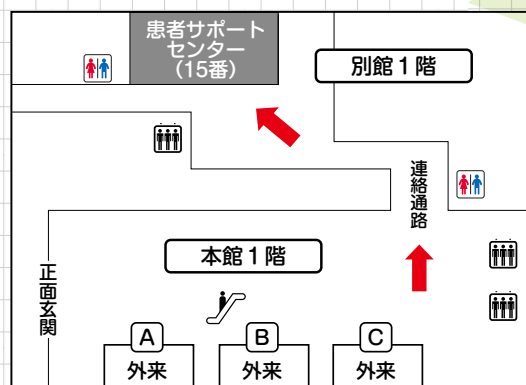
(別館1階 患者サポートセンター内)

【お問い合わせ先】

027-322-5017 (がん相談直通)

027-322-5901 (代表)

相談をご希望される方は
相談窓口もしくは**電話**にてご連絡ください。



9月21日は中秋の名月です。

中秋の名月とは、旧暦の8月15日を指し、一年で最も月が美しく見られるとされています。別名「十五夜」とも呼ばれ、お供え物をしてお月見をする習わしがあります。

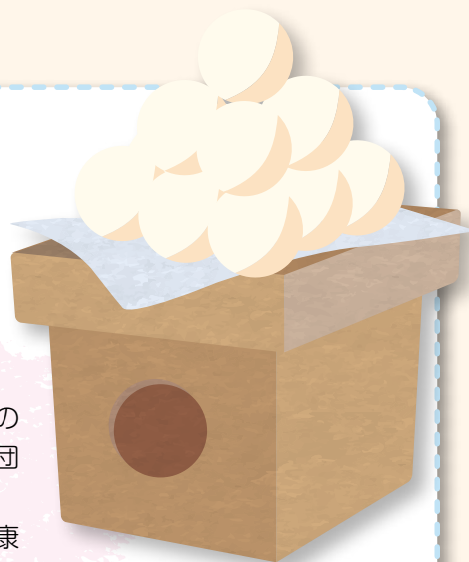
また、十三夜（今年は10月18日）とセットでお月見を楽しむことが吉とされています。

お供え物にはどんなものがあるでしょう。

お団子

穀物の収穫に対する祈願や感謝のため、月に見立てた丸い形のお団子をお供えします。

また、食べることで幸せと健康が得られるといわれています。

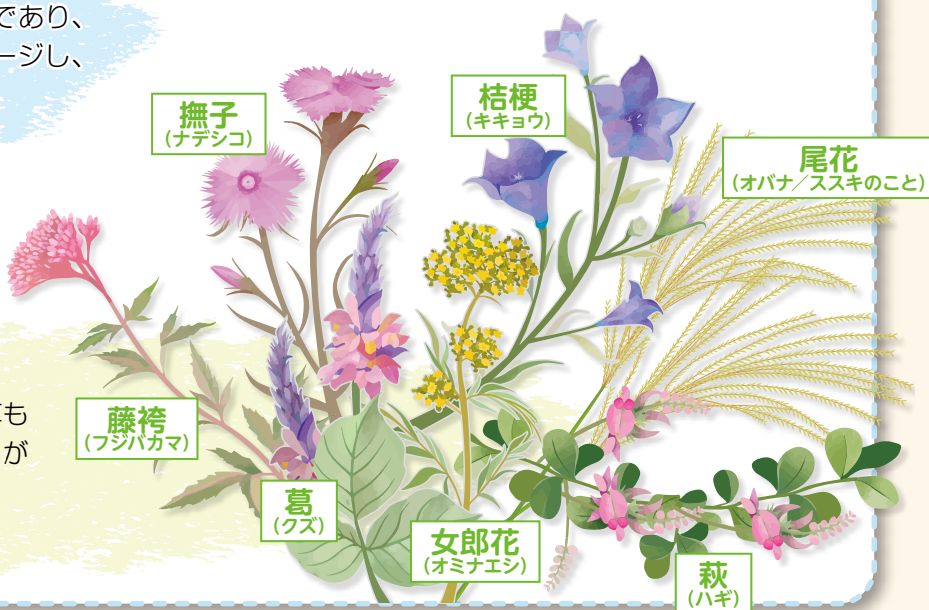


ススキ

ススキは秋の七草のひとつであり、豊作祈願のため稲穂をイメージし、お供えされています。

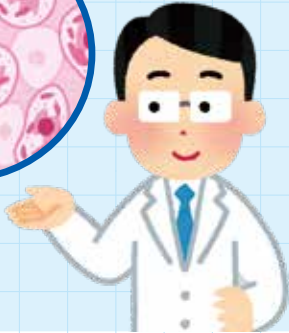
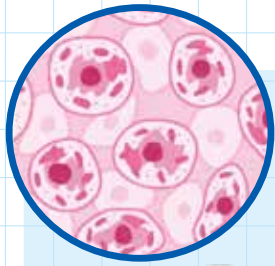
秋の七草

ススキに加えて、他の秋の七草もお供え物として飾られることがあります。



旧暦と新暦には1～2ヵ月のずれがあるため年によって日付が異なり、毎年満月になるとは限りませんが、今年の名月は満月と同日になるそうです。

お供え物をし、お月見を楽しむのはいかがですか。



これまで病理組織標本の作製について説明してきましたが、今回は最後の工程の**染色**について説明します。染色の目的は、スライドガラスに薄く貼り付けた組織や細胞はほとんど無色であるため様々な色素を用いて色を付けて観察しやすくするために行います。今回は最も基本的な組織染色法であるヘマトキシリン・エオジン染色(HE染色)について説明します。

HE染色で使用する染色液の主な成分は“水”です。しかし前回説明した薄切切片は水と親和性のないパラフィンが付いたままなので、そのままの状態では染色液が弾かれて染めることができません。そのため、まずパラフィンを取り除くためにキシレンに入れて脱パラフィン操作を行います。脱パラフィンで使用したキシレンも水と親和性がないので、次にキシレンとも水とも親和性のあるアルコールによって脱キシレン操作を行います。脱キシレンで使用した高濃度のアルコールから極端にアルコール濃度の低い染色液を移すとスライドガラスの組織が剥がれやすくなります。剥離を防ぐため、段階的にアルコール濃度を下げて、徐々に水に近づける親水と呼ばれる操作を行います。ここまで終えることでようやく染色に移ることができます。

HE染色ではまずヘマトキシリンという染色液で細胞の核を染め、次にエオジンという染色液で細胞質や細胞間質、繊維などを染めます。染色液で組織を染めた後は最終的に永久標本として保存するため、退色の原因である水を取り除く必要があります。そのため逆をたどるようにアルコールで脱水し、キシレンで脱アルコールを行います。また、このキシレンにつけることで組織に透明感が出てより観察に適した状態となります。その後、カバーガラスで組織を覆う封入をして病理組織標本は完成します。

今回説明したHE染色の一連の流れは現在自動染色装置(写真1)で行われています。そのほかにも膠原繊維や弾性繊維、細網繊維など特定の組織構造を観察したい場合など特殊染色については臨床検査技師がそれぞれ手作業で標本を染色しています(写真2)。



写真1 自動染色装置



写真2 手染めの染色の様子

次回は術中迅速診断について説明します。

医師紹介 コーナー

当センターの
医師を
紹介します!



2021年7月より救急科に配属となりました町田浩志と申します。出身は北海道で、2000年に神奈川県を卒業し胸部外科医として8年間の修行を経て、2008年4月より群馬県で救急科医としてのスタートを切りました。前橋赤十字病院で12年間にわたり救急集中治療を学びながらドクターヘリ事業の立ち上げ、様々な災害救護活動に関わり、2020年4月からは原町赤十字病院に派遣となり、救急科医が不在であった吾妻地域の救急医療体制の構築を行ってきました。

救急医療の本質は「地域を支える地場産業」です。当院各科医師、スタッフのみならず、地域の医療機関の皆様、消防、警察、行政とのシームレスな連携こそが、市民が安心して暮らせるための医療体制のカギになると感じています。当院救急科は少人数であり皆様のリクエストにすべてこたえられないかもしれませんが、目指すは「いつどんな時でも断らない頼りになる救命救急センター」に向けて尽力いたしますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。



●救急科

まちだ ひろし
町田 浩志

はじめまして。2021年4月より内分泌・代謝内科で勤務しております、伊藤大貴（いとうひろき）と申します。出身は高崎で、すぐ近くの高崎高校の卒業です。懐かしい眺めに囲まれながら日々を過ごしております。大学も群馬大学でしたので、生粋の群馬人です。

医師としての生活を、研修医からずっと大学病院で過ごしてきたため、初めての市中病院勤務となります。慣れない点も多く、多くのスタッフや地域の先生方、また患者様に支えられ診療に当たらせていただいております。特に糖尿病や内分泌の分野は皆様のご協力がないとできない医療だなと日々痛感しております。

趣味は落語・講談鑑賞でコロナ禍以前は東京の寄席に足繁く通っていました。また行ける日を待ち望んで日々の臨床にとり組んでおります。最近、趣味というわけではないですが、ステイホームの影響か体重が増えてしまったため、患者さんに負けないように家での筋トレをはじめました。

育った街である高崎の医療に携われることに日々充実感を抱いております。まだまだ若輩者で、至らぬ点も多いですが、精一杯努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。



●内分泌・代謝内科

いとう ひろき
伊藤 大貴

セカンドオピニオンのご案内

当センターではセカンドオピニオン外来を
実施しております。
概要につきましては以下のとおりです。



対象患者さん

- 現在当センター以外の医療機関で診療を受けている患者さん、ご家族
- 現在の主治医（他医療機関）の診断及び治療方針について、当センター医師に参考意見を求め、患者さんご本人が自らの疾患をより理解し適切な診療を選択する等の為に、セカンドオピニオン外来の活用を望む方
- 原則として主治医（他医療機関）からセカンドオピニオンを目的とした紹介状及びフィルム等の検査資料を当院に提供可能な患者さん、ご家族であることを要します（主治医にセカンドオピニオンを受けるための紹介状等をお願いすれば対応してもらえます）
- 相談者をご家族の場合は、原則として患者さんの同意を得た場合といたします

実施診療科

【各科の専門医が対応いたします】

内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、心臓血管内科、小児科、外科
乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外科、産婦人科
泌尿器科、眼科、放射線診断科、放射線治療科、歯科口腔外科



予約方法

完全予約制 代表電話：027-322-5901

※代表にお電話を頂き、『セカンドオピニオン係』とお申し付け下さい

【受付時間】 月曜～金曜 8時30分～17時の間

※精神科の受付時間は 月曜～金曜 8時30分～12時迄 となります

※事前にご予約電話を受け付け、担当専門医と日程調整を行った後に折り返し
当センターより連絡させていただきます

外来時間

セカンドオピニオン外来時間（診療科によって曜日は異なります）

月曜～金曜 13時30分から15時30分の間で調整

費用

30分以内 5,500円(消費税込み)

30分以上 11,000円(消費税込み)

セカンドオピニオンとは

セカンドオピニオンとは現在の自分の病状や治療方針について他の医師の意見を求めることをいいます。医療が進歩してさまざまな治療法が生まれています。

その結果、医師によって病気に対する考え方が違うことや、病院によって医療技術や診療の質に差があることも考えられます。治療法について具体的な比較ができ、より適した治療法を患者さん自身が選択することができます。

当センターでは、よりよい治療法を患者さん自身が選択できるように、セカンドオピニオンを積極的にお勧めしております。

セカンドオピニオン 外来担当表

科 名	医師名	専 門	曜 日
内 科	佐 藤 正 通	内科全般、血液内科	火
精 神 科	井 田 逸 朗	がんのメンタルヘルス	木
呼 吸 器 内 科	中 川 純 一	呼吸器全般	
消 化 器 内 科	長 沼 篤 増 田 智 之	消化器病一般、肝臓病 食道、胃、大腸	随時
心 臓 血 管 内 科	広 井 知 歳 太 田 昌 樹 福 田 延 昭	狭心症・心筋梗塞の治療（カテーテル治療） 不整脈一般 心不全、弁膜症	金 水 木
小 児 科	五十嵐 恒雄	小児科全般・未熟児・新生児	水
外 科	小 川 哲 史 坂 元 一 郎	消化器外科全般、特に悪性腫瘍の手術 消化器外科全般	木 水
乳腺・内分泌外科	鯉 淵 幸 生 高 他 大 輔	乳がん全般・甲状腺外科 乳がん全般・甲状腺外科	第1・3・5週 金（午前） 随時
心 臓 血 管 外 科	小 谷 野 哲 也	心臓血管の外科治療	火、木、金
呼 吸 器 外 科	伊 部 崇 史 高 坂 貴 行	肺がん、縦郭腫瘍、呼吸器外科全般 肺がん、縦郭腫瘍、呼吸器外科全般	木 火
脳 神 経 外 科	田 中 志 岳 笹 口 修 男 佐 藤 晃 之	脳腫瘍 水頭症、脳外科一般 血管障害	月 木 金
産 婦 人 科	伊 藤 郁 朗	婦人科腫瘍	月、火、金
泌 尿 器 科	井 上 雅 晴	泌尿器科全般	火
眼 科	土 屋 明	眼科全般（眼腫瘍を除く）	水、木
放 射 線 診 断 科	根 岸 幾 佐 藤 洋 一	画像診断CT・MR中心 画像診断CT・MR中心	木 火
放 射 線 治 療 科	永 島 潤	悪性疾患の放射線治療	
歯 科 口 腔 外 科	稲 川 元 明 薬 師 寺 孝	口腔顔面痛 口腔外科全般、顎変形症、インプラント	火、水、木、金 月、火、木、金

外来診療担当表

当センターは、地域医療支援病院として運営しております。
かかりつけ医の先生からの紹介状をご持参願います。

	月	火	水	木	金
総合診療科・内科	佐藤 正通 飯塚 堯	佐藤 正通 加藤 昭彦 予約のみ 午前	奥野 彩花 (真下 大和) 午前 予約のみ	佐藤 正通 飯塚 堯 (合田 史) 午後・予約専門外来	佐藤 正通 加藤 昭彦 午前
栄養食事指導外来		佐藤 正通 午後			
内分泌代謝内科	渋沢 信行	須江 麻衣 (植原 正也) 午前 午前	須江 麻衣 伊藤 大貴 午前 午前	渋沢 信行 午後	渋沢 信行 伊藤 大貴 午前 午前
神経内科	(池田 雅美)	平柳 公利	菊池 雄太郎	丸山 琴音 (古田 夏海) 午前 午後・新患外来	清水 一輝
呼吸器内科	中川 純一 若松 郁生 午前	細野 達也 内田 恵 午前	増渕 裕朗 田口 浩平 午前	中川 純一 増渕 裕朗 午前	細野 達也 内田 恵 午前
消化器内科	長沼 篤 安岡 秀敏 上原 早苗 都丸 翔太 (石原 弘) 午前 午前 午前 午前 午後	星野 崇 鈴木 悠平 佐野 希望 都丸 翔太 午前 午前 午前 午前	柿崎 暁 安岡 秀敏 増田 智之 成清 弘明 (石原 弘) 午前 午前 午前 午前 午後	長沼 篤 増田 智之 鈴木 悠平 (工藤 智洋) 午前 午前 午後・第3週以外	星野 崇 佐野 希望 田村 優樹 (岡野 祐大) 午前 午前 午前 午後
上部内視鏡検査	星野 / 増田 / 岡野	安岡 / 増田	上原 / 佐野	上原 / 佐野 / 都丸	長沼 / 鈴木 / 岡野
心臓血管内科 (循環器)	太田 昌樹 村田 智行 大駒 直也 午前・通常 / 午後・不整脈外来 午前	小林 洋明 高橋 伸弥 (金澤 紀雄) 午前 午前 再来	広井 知歳 太田 昌樹 羽鳥 直樹 午後・不整脈外来 午前	福田 延昭 柴田 悟 (金澤 紀雄) 午前 午前 再来	小林 紘生 太田 昌樹 久野 貴弘 午前・通常 / 午後・不整脈外来 第2, 4週午後・ペースメーカー外来 午前
新患外来(午前)	高橋 伸弥	久野 貴弘	村田 智行	羽鳥 直樹	小林 洋明
精神科	井田 逸朗 山崎 雄高 午前	井田 逸朗 山崎 雄高 午前	井田 逸朗 山崎 雄高 午前	井田 逸朗 山崎 雄高 午前	井田 逸朗 山崎 雄高 午前
小児科	五十嵐 恒雄 内田 亨 木村 有希 午前 午後 午後	五十嵐 恒雄 倉田 加奈子 諸田 潤一郎 (神尾 綾乃) 午後 午前 午後第1, 2, 5週のみ 第4週午後	五十嵐 恒雄 倉田 加奈子 佐藤 幸一郎 (滝沢 琢己) 午前 午後 午後 第2, 4週午後	倉田 加奈子 西澤 拓哉 田端 洋太 (岩脇 史郎) 午前 午後 午後 午前	五十嵐 恒雄 佐藤 幸一郎 峯村 理紗 午後 午前 午前
小児外科		(西明・高澤慎也) 第4週午後	(西明・高澤慎也) 第1週午後		
外科 (消化器)	坂元 一郎 田中 成岳	小川 哲史 成澤 英司 午前	田中 寛 岡田 幸士	小川 哲史 平井 圭太郎 午前	宮前 洋平 星野 万里江
栄養サポート外来				小川 哲史 小川 哲史 小川 祐介(栄養士) 午後	
禁煙外来				小川 哲史 午後	
ストーマ外来			第2, 4週午後・予約	第1, 3, 5週午後・予約	

1 外来診療受付時間

8:30～11:00迄 (予約の場合は最終予約時間まで)

※再来受付機は8:00から受付しています

- 紹介状をお持ちの方、紹介事前予約の方は、1番：紹介状をお持ちの方・地域医療連携窓口で受け付けております。
- 当センター受診にはかかりつけ医の先生からの紹介状をご持参ください。紹介状をお持ちでない方は、診察をお受けできない場合や、長時間お待ちいただく場合がございます。
- 受診時にはお薬手帳、薬剤情報提供書または飲んでいるお薬をご持参ください。

2 休診日 土、日、祝日、年末年始

- 学会等により、休診または医師が交替する場合があります。院内掲示をご覧ください。



地域医療支援・
連携センターから
地域の先生へお願い

当センターへの紹介の際は、
地域医療支援・連携センターを通した
事前予約にご協力下さい。

() の医師は非常勤です。

	月	火	水	木	金
泌尿器科	井上雅晴	栗原聰太	(青木雅典) 午前	井上雅晴	栗原聰太
疼痛緩和内科	田中俊行	田中俊行	田中俊行	田中俊行	田中俊行
乳腺・内分泌外科	鯉淵幸生 午前	鯉淵幸生	鯉淵幸生	(荻野美里) 第2, 4週午後	高他大輔 午前
	徳田尚子 午前	高他大輔 午前	高他大輔	(中澤祐子) 第1, 3, 5週午後	徳田尚子 第1, 3, 5週午前
	成澤瑛理子 午前	徳田尚子	徳田尚子	交代制 午前・予約	成澤瑛理子 第2, 4週午前
		成澤瑛理子 午後			
心臓血管外科	<手術日>	交代制 午後	<手術日>	小谷野哲也 午前 羽鳥恭平 午後	茂原淳 午前
呼吸器外科	<手術日>	伊部崇史 高坂貴行	<手術日>	伊部崇史 高坂貴行	<手術日>
整形外科	荒毅	大澤敏久	荒毅	新井厚	大澤敏久
	信太晃祐	齋藤健一	信太晃祐	遠藤史隆	齋藤健一
	遠藤史隆	書上韻	一ノ瀬剛	<手術日>	一ノ瀬剛
			書上韻		
形成外科	<手術日>	中村英玄	中村英玄	中村英玄	交代制
脳神経外科	田中志岳	栗原秀行 午前	<手術日>	笹口修男	佐藤晃之
皮膚科		(井上千鶴) 紹介・予約			(内山明彦) 紹介・予約
産婦人科	伊藤郁朗	青木宏	大枝涼平 午前	(金井眞理) 午前	伊藤郁朗
	永井あや	黒住未央	(小林梓) 午前	交代制 午前	青木宏
	黒住未央	井上拓哉			永井あや
眼科	土屋明 紹介・予約	土屋明	土屋明	土屋明	土屋明
眼形成眼窩外科	笠井健一郎 紹介・予約 <手術日>	笠井健一郎 紹介・予約 <手術日>	笠井健一郎	笠井健一郎 紹介・予約 <手術日>	笠井健一郎
耳鼻いんこう科	高橋克昌	岡宮智史	<手術日>	高橋克昌	高橋克昌
	岡宮智史				岡宮智史 午前
放射線治療科	永島潤 紹介・予約	永島潤 紹介・予約	永島潤 紹介・予約	永島潤 紹介・予約	永島潤 紹介・予約
	堀込瑛介 紹介・予約	堀込瑛介 紹介・予約	堀込瑛介 紹介・予約	堀込瑛介 紹介・予約	堀込瑛介 紹介・予約
歯科口腔外科	柴野正康 紹介・予約	<手術日>	薬師寺孝 紹介・予約	薬師寺孝 紹介・予約	<手術日>
			前山恵里 紹介・予約	柴野正康 紹介・予約	
新患外来	薬師寺孝 紹介・予約		柴野正康 紹介・予約	前山恵里 紹介・予約	
歯科(歯科麻酔) 摂食嚥下・口腔ケア外来	稲川元明 第1, 3, 5週のみ、紹介・予約	稲川元明 紹介・予約	稲川元明	稲川元明	稲川元明 紹介・予約
	木村将典 紹介・予約	倉持真理子 紹介・予約	木村将典 紹介・予約	木村将典 紹介・予約	倉持真理子 紹介・予約
	倉持真理子 紹介・予約	(荒井亮・辻野啓一郎) 第2, 4週のみ、紹介・予約	倉持真理子 紹介・予約		

(令和3年9月1日現在)

3 予約について

当院は「医療機関からの紹介患者事前予約制」をとらせていただいております。

医療機関様にはお手数をおかけしますが、予約の際には「事前予約申込書」に必要事項を記載し、地域医療支援・連携センターへFAXにてご依頼ください。折返しお電話で予約日時の連絡をさせていただきます。

※分娩希望についてはこの限りではありません。

※心臓血管内科は平日8:30~11:00までに紹介状を持参のうえ来院していただきますと当日受診が可能です。

※消化器内科で早めの対応が必要な患者さんは平日11:00~15:00までに紹介状を持参のうえ来院していただければ対応させていただきます。(予定での紹介が可能な患者さんは地域医療支援・連携センターを通しての予約をお願いします。)

4 連絡先

高崎総合医療センター内 地域医療支援・連携センター

医療機関専用ダイヤル: 027-322-5835 《平日 8:30~18:30 / 土曜日 8:30~17:15》

FAX: 027-322-5925 《FAXは24時間受け付けています。お返事は翌営業日になります》

コロナ禍での終活

院長閑話

vol.6



病院長 小川 哲史

新型コロナの新規感染者数は減少傾向です。しかし、軽症と判断され自宅療養していた感染者が急激な病状の悪化により死亡し、また感染した妊婦を受け入れる病院がなかったため自宅で出産し胎児が死亡するなど、信じがたい医療崩壊が起っています。緊急事態宣言は9月30日まで延長されましたが、それまでにパンデミックが収束するとはとても思えず、新たな変異株も報告され、少なくとも数年間はコロナとの共存を覚悟しなければならないと思います。コロナ感染症の怖さには、軽症または中等症の状態から急激に悪化し死に至ることがあること、つまり日常生活を送っている人が突然隔離されそのまま死を迎えることがあります。また、終活を行っている、あるいは行う準備をしている方が、自分の考えている終活ができずに不本意な終焉を迎える可能性があります。

終活とは「人生の終わりのための活動」で、人間が自らの死を意識して人生の最期を迎えるための様々な準備や、そこに向けた人生の総括を意味します。人生の終焉を考えることで、自分を見つめ直しより良く生きる活動だと思います。具体的には、事前指示書（リビング・ウィル）や遺言書、エンディングノートなどを記すこと、また財産整理などの他、体力や認知機能、嚥下機能を維持して、死ぬまでにしたい事をする、生きたいように生きることです。しかし、コロナ禍によって定年後に楽しみにしていた旅行や外出、外食などが制限され、また介護施設等を利用している高齢者では、体力の低下や認知機能、嚥下機能の低下が進んでいるようで、何とも悲しい限りです。

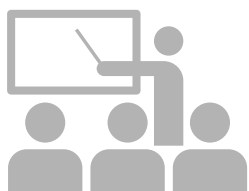
さて、当院では2019年4月から高崎市や高崎市医師会とも協力して、月に一度、木曜日の午後、高崎市内の長寿センターを訪問し、地域の高齢者の方々を対象に1時間ほどのセミナー、座談会を行ってきました。このセミナーは、私たちが一般市民の方々にぜひ伝えたい事を話し、様々な意見や要望を聞く場として始めました。これまでの具体的な話題としては、終末期医療における胃瘻の適応や身体抑制のあり方、事前指示書やエンディングノートの意義と書き方、週刊誌や新聞、テレビなどのマスコミ報道や医療否定本による誤った医学情報に関して、また市販のサプリメントや民間療法、代替療法について、などです。このセミナーは私にとってとても楽しく有意義で、私自身の「終活」の一つと考えていますが、残念ながらコロナ禍のため現在は開催できていません。現在、様々なセミナーがウェブ形式で行われていますが、この長寿センターでのセミナーだけは、平日の昼下がり、に、畳敷きの大きな広間で、お茶を飲みながら座卓を囲んで行わなければなりません。コロナが収束し人々の交流ができる日常に戻ったら、できるだけ早く長寿センター訪問を再開したいと思います。65歳以上の方、長寿センターでぜひ一緒に終活しましょう。

(9月13日)

INFORMATION

行事などのお知らせ

お気軽に
ご参加ください



●第20回地域連携症例検討会 『整形外科領域疾患の診断と 治療の連携』

日時：2021年10月14日(木)
19:00～20:30

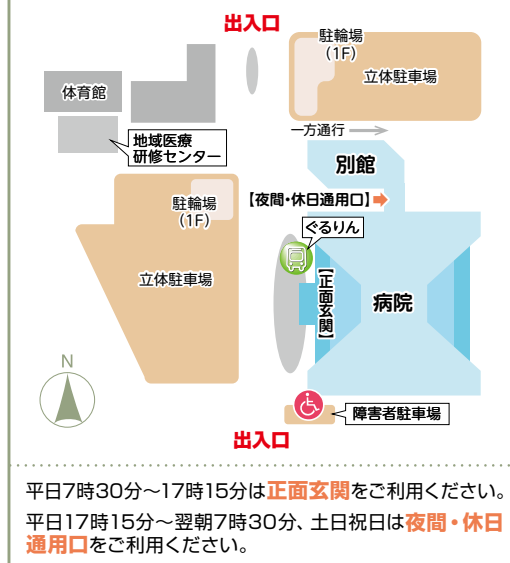
場所：Web「ZOOM」及び
高崎総合医療センター 2階大会議室

対象：医師、看護師等医療関係者

※日本医師会生涯教育講座：1.5単位



高崎総合医療センター案内図



編集室より

登録医の先生方からのご寄稿・ご意見をお待ちしております。
地域医療支援・連携センターまでご連絡をお願い致します。

電話 **027-322-5835** (医療機関専用ダイヤル)

独立行政法人・国立病院機構
高崎総合医療センター